

第 10 回  
兵庫県防災会議地震災害対策計画専門委員会

資料3-1 津波浸水予測結果（淡路島）

— 浸水予測図 —

平成25年8月22日

兵 庫 県

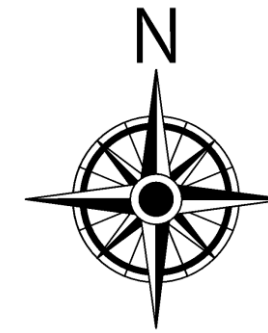
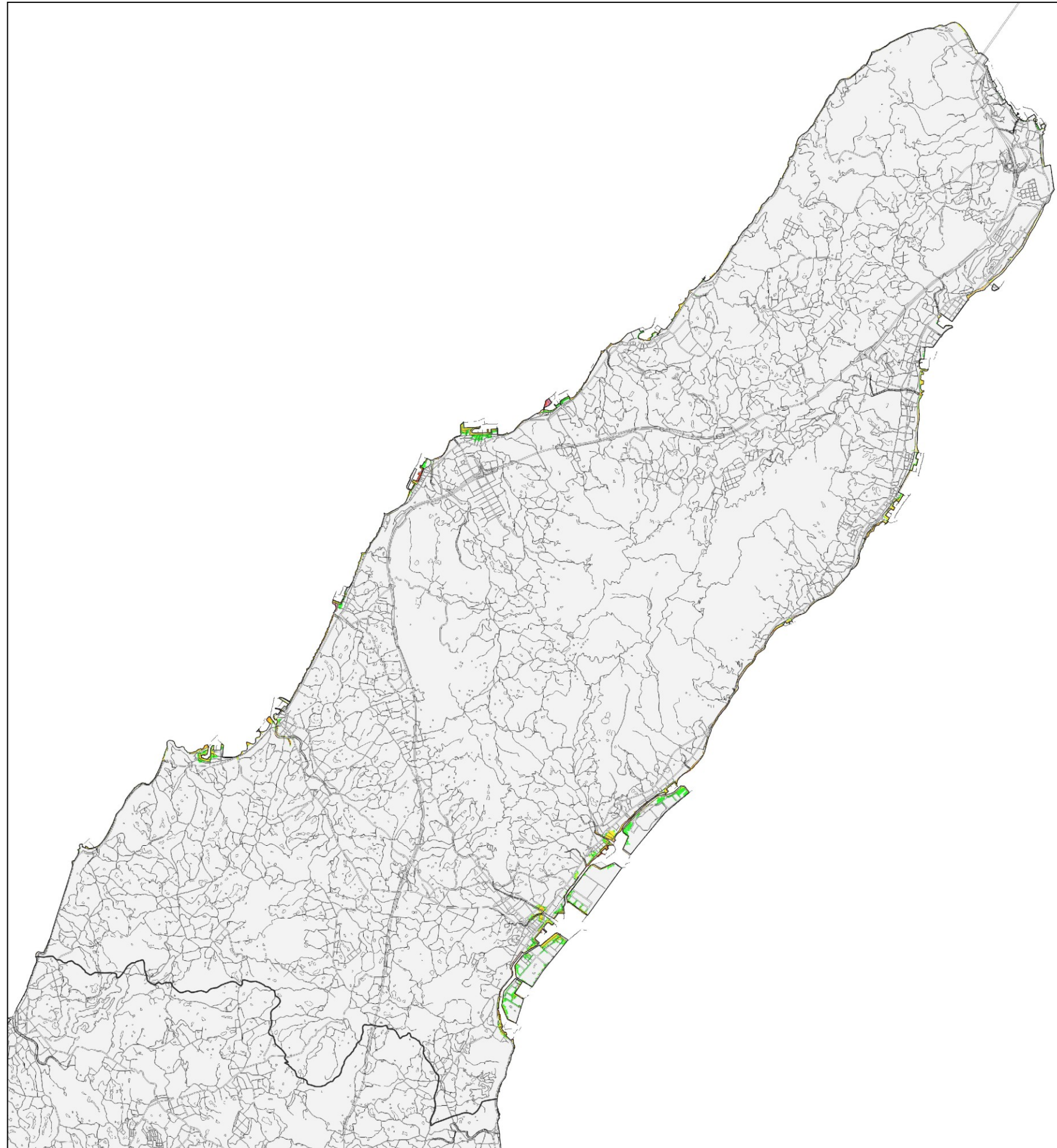


## 目 次

1 淡路市 .....	1
2 洲本市 .....	4
3 南あわじ市 .....	7



# 1 淡路市



凡例【浸水深】

5.0 m 以上 ~	5.0 m 未満
4.0 m 以上 ~	4.0 m 未満
3.0 m 以上 ~	3.0 m 未満
2.0 m 以上 ~	2.0 m 未満
1.0 m 以上 ~	1.0 m 未満
0.3 m 以上 ~	0.3 m 未満

【構造物条件】

条件①：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤あり

- ※ 強震動による液状化に伴い護岸・堤防・胸壁等の防潮施設は沈下し、さらに、津波が天端を越流したら破堤するとした場合（水門、防潮鉄扉、樋門・樋管は全開）
- ※ 常時閉鎖されている、あるいは、耐震性を有し、自動化され、津波が到達するまでに閉鎖が完了できる施設は「閉」条件とする

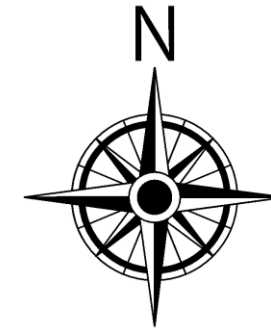
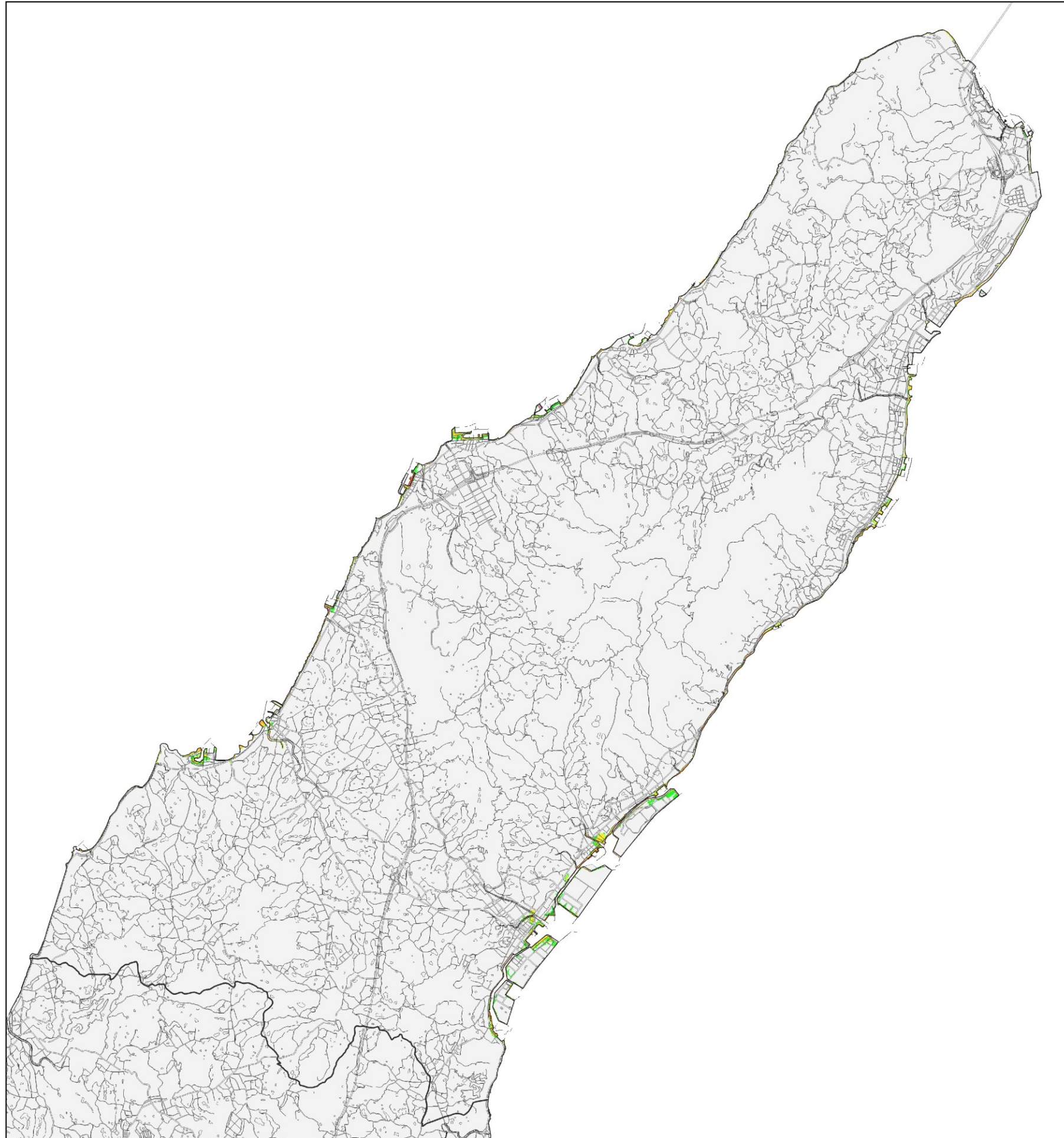
海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	一部閉鎖※	破堤

※一部閉鎖：耐震性が確保され、津波到達時間までに閉鎖操作が完了できる施設

【留意事項】

- ＊ 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ＊ 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ＊ 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ＊ 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- ＊ 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ＊ 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。





凡例 [浸水深]

5.0 m 以上 ~	
4.0 m 以上 ~	5.0 m 未満
3.0 m 以上 ~	4.0 m 未満
2.0 m 以上 ~	3.0 m 未満
1.0 m 以上 ~	2.0 m 未満
0.3 m 以上 ~	1.0 m 未満
	~ 0.3 m 未満

**【構造物条件】**

条件②：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤なし

※ 強震動による液状化に伴い護岸・堤防・胸壁等の防潮施設は沈下するが、津波が天端を越流しても破堤しない場合（水門、防潮鉄扉、樋門・樋管は全閉）

海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	全て閉鎖	破堤しない (粘り強い)

**【留意事項】**

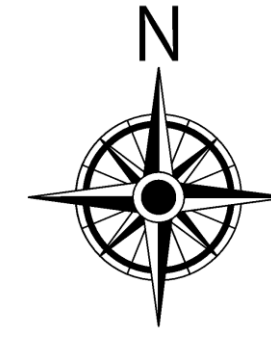
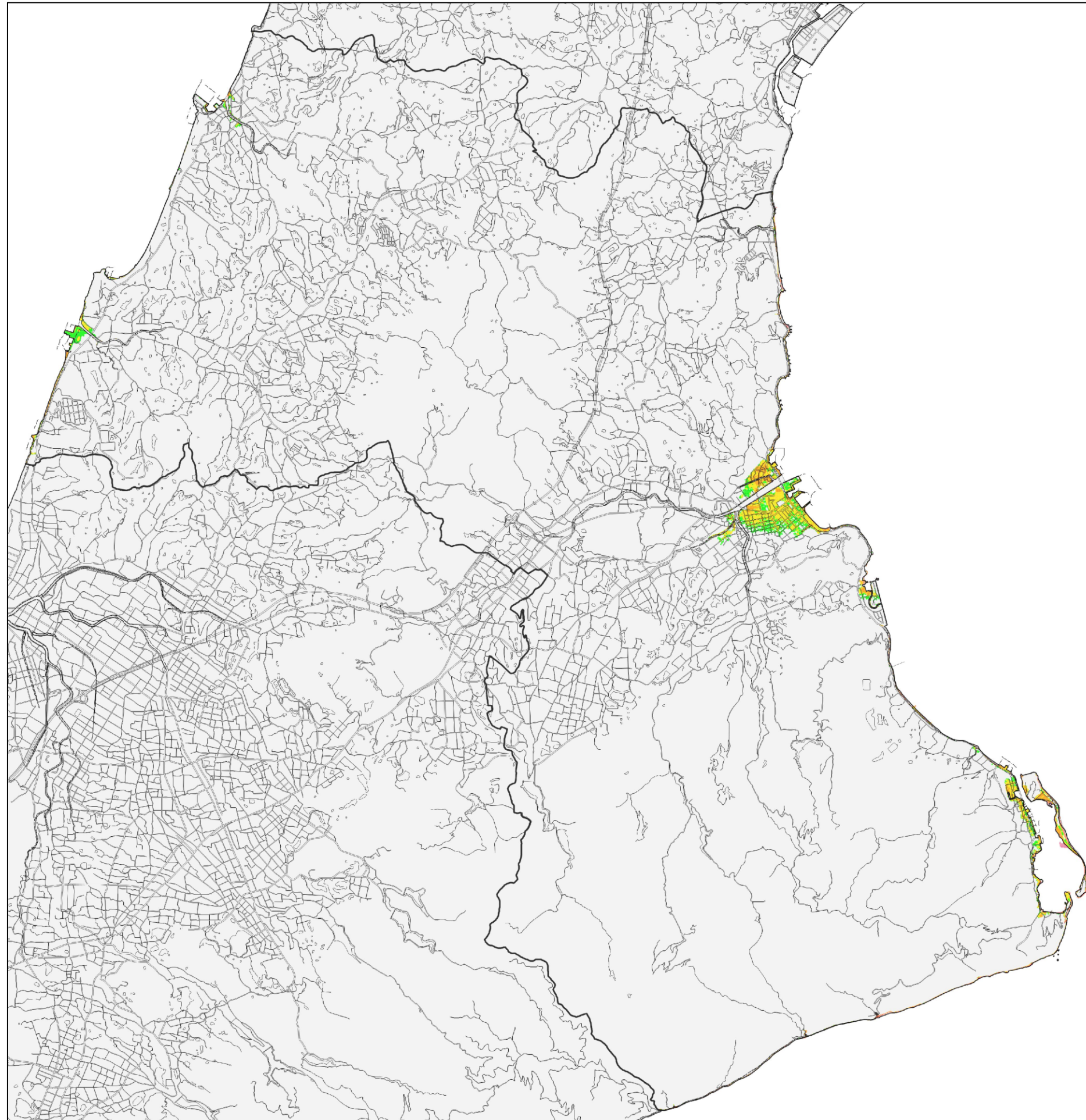
- ＊ 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ＊ 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ＊ 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ＊ 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- ＊ 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ＊ 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。



## 2 洲本市



兵庫県津波浸水想定



凡例 [浸水深]

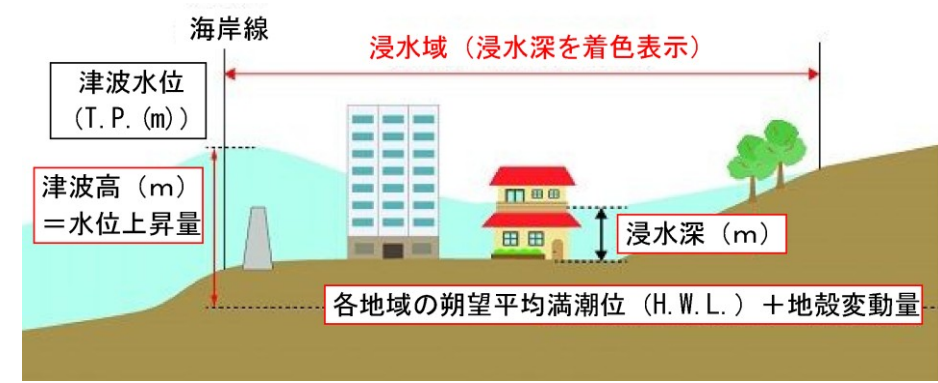
5.0 m 以上 ~	5.0 m 未満
4.0 m 以上 ~	4.0 m 未満
3.0 m 以上 ~	3.0 m 未満
2.0 m 以上 ~	2.0 m 未満
1.0 m 以上 ~	1.0 m 未満
0.3 m 以上 ~	0.3 m 未満

**【構造物条件】**  
**条件①：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤あり**  
 ※ 強震動による液状化に伴い護岸・堤防・胸壁等の防潮施設は沈下し、さらに、津波が天端を越流したら破堤するとした場合（水門、防潮鉄扉、樋門・樋管は全開）  
 ※ 常時閉鎖されている、あるいは、耐震性を有し、自動化され、津波が到達するまでに閉鎖が完了できる施設は「閉」条件とする

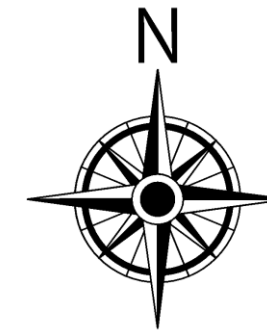
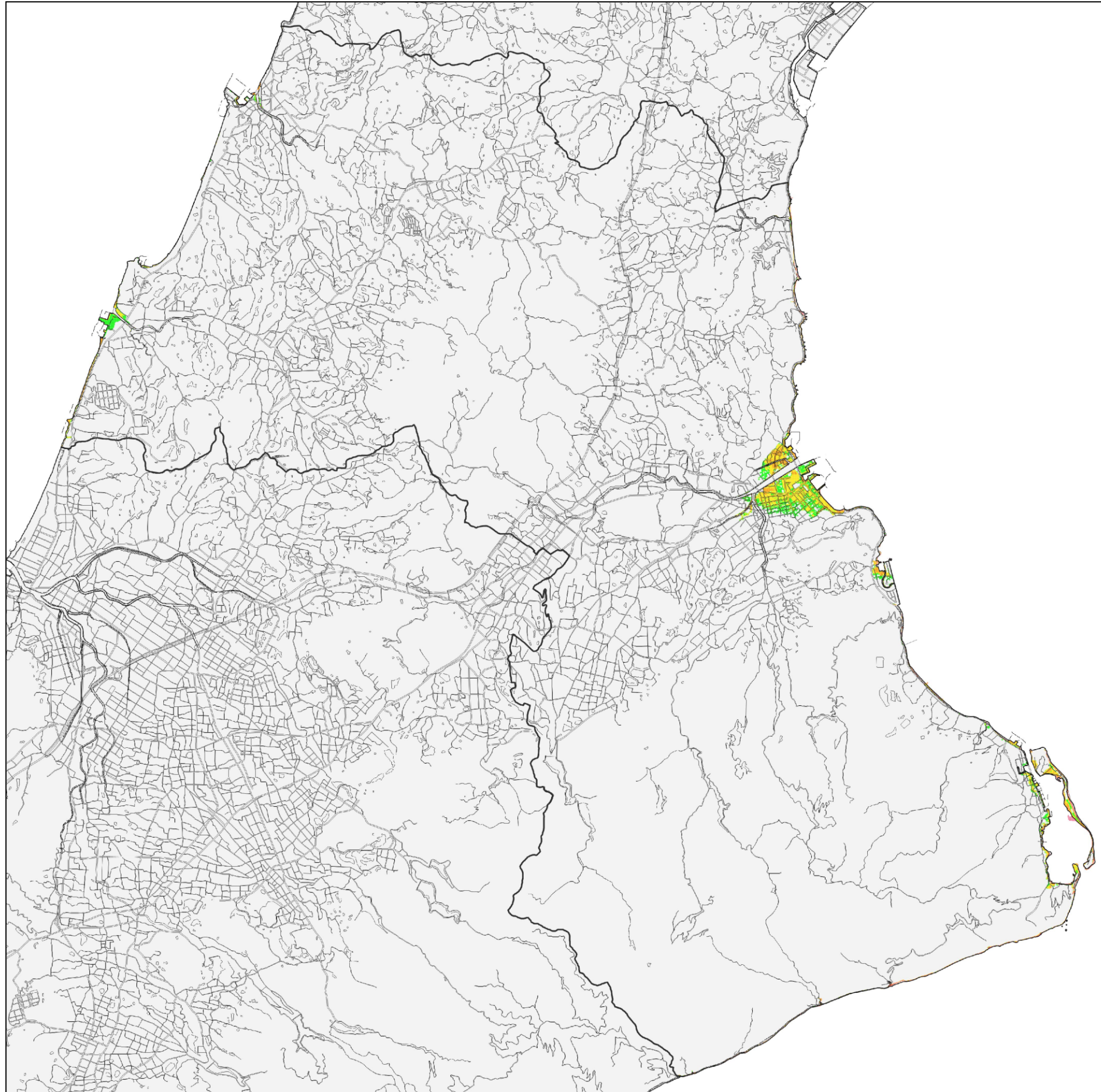
海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	一部閉鎖※	破堤

※一部閉鎖：耐震性が確保され、津波到達時間までに閉鎖操作が完了できる施設

- 【留意事項】**
- ※ 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
  - ※ 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
  - ※ 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
  - ※ 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
  - ※ 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
  - ※ 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。



兵庫県津波浸水想定



凡例 [浸水深]

5.0 m 以上 ~	5.0 m 未満
4.0 m 以上 ~	4.0 m 未満
3.0 m 以上 ~	3.0 m 未満
2.0 m 以上 ~	2.0 m 未満
1.0 m 以上 ~	1.0 m 未満
0.3 m 以上 ~	0.3 m 未満

【構造物条件】

条件②：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤なし

※ 強震動による液状化に伴い護岸・堤防・胸壁等の防潮施設は沈下するが、津波が天端を越流しても破堤しない場合（水門、防潮鉄扉、樋門・樋管は全閉）

海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	全て閉鎖	破堤しない (粘り強い)

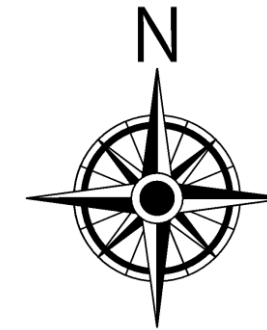
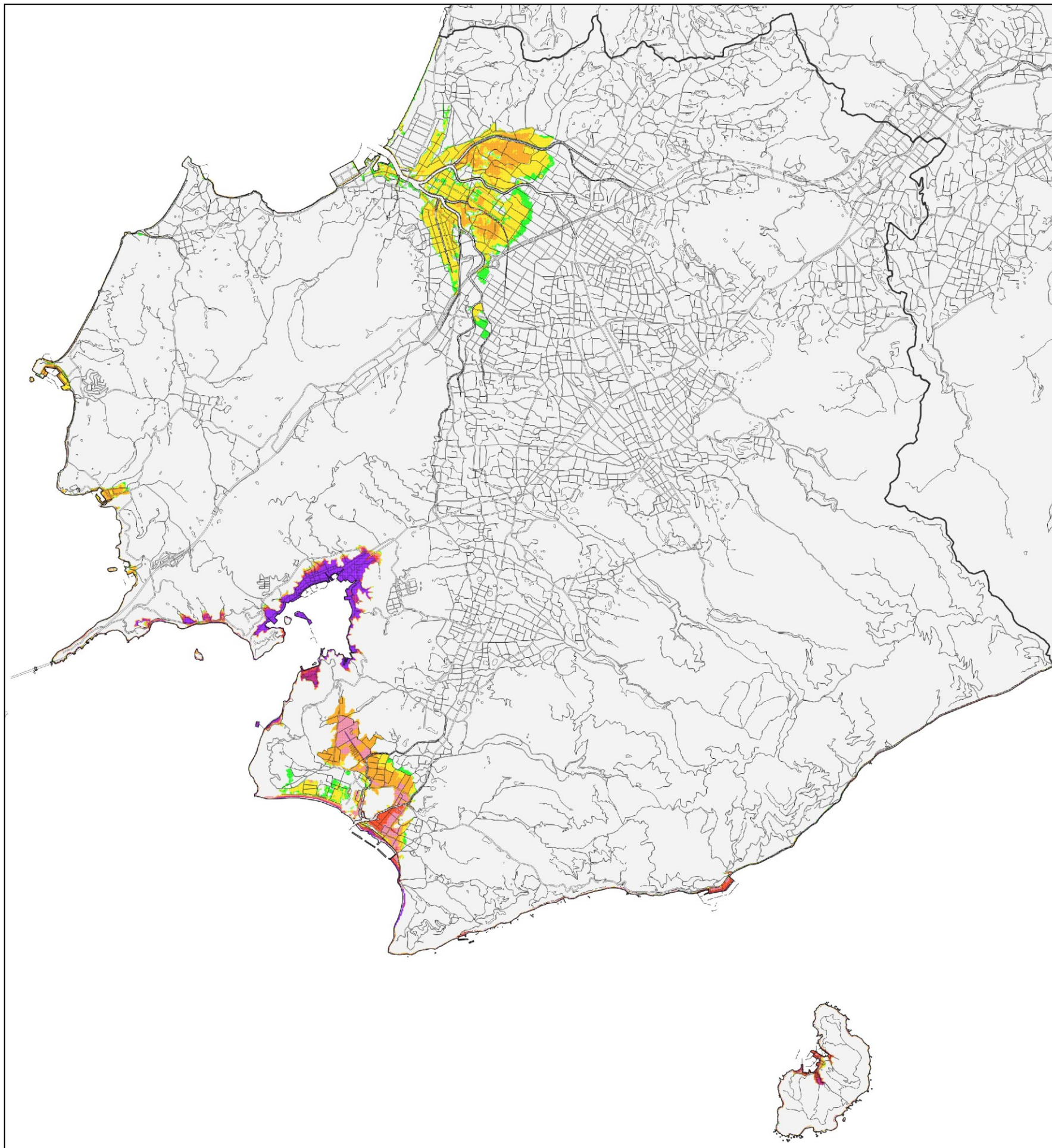
【留意事項】

- ※ 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ※ 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ※ 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ※ 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- ※ 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ※ 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。



### 3 南あわじ市

兵庫県津波浸水想定



凡例 [浸水深]

5.0 m 以上 ~	5.0 m 未満
4.0 m 以上 ~	4.0 m 未満
3.0 m 以上 ~	3.0 m 未満
2.0 m 以上 ~	2.0 m 未満
1.0 m 以上 ~	1.0 m 未満
0.3 m 以上 ~	0.3 m 未満

【構造物条件】

条件①：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤あり

- ※ 強震動による液状化に伴い護岸・堤防・胸壁等の防潮施設は沈下し、さらに、津波が天端を越流したら破堤するとした場合（水門、防潮鉄扉、樋門・樋管は全開）
- ※ 常時閉鎖されている、あるいは、耐震性を有し、自動化され、津波が到達するまでに閉鎖が完了できる施設は「閉」条件とする

海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	一部閉鎖※	破堤

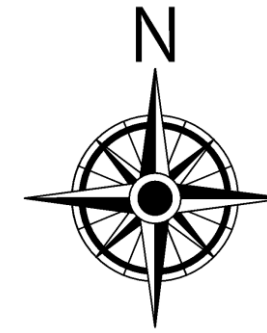
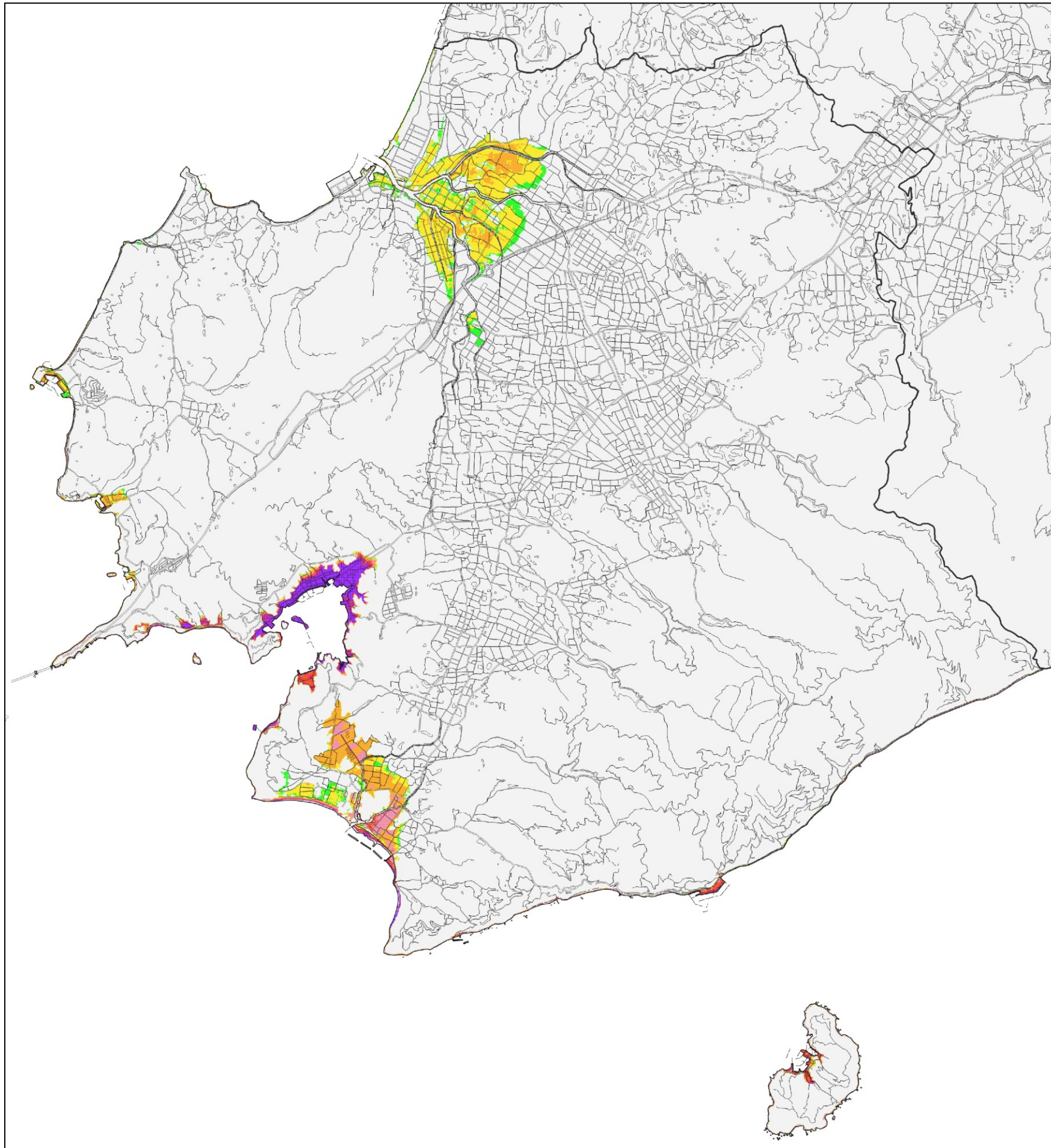
※一部閉鎖：耐震性が確保され、津波到達時間までに閉鎖操作が完了できる施設

【留意事項】

- \* 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- \* 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- \* 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- \* 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- \* 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- \* 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。



兵庫県津波浸水想定



凡例 [浸水深]

5.0 m 以上 ~	5.0 m 未満
4.0 m 以上 ~	4.0 m 未満
3.0 m 以上 ~	3.0 m 未満
2.0 m 以上 ~	2.0 m 未満
1.0 m 以上 ~	1.0 m 未満
0.3 m 以上 ~	0.3 m 未満

【構造物条件】

条件②：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤なし

※ 強震動による液状化に伴い護岸・堤防・胸壁等の防潮施設は沈下するが、津波が天端を越流しても破堤しない場合（水門、防潮鉄扉、樋門・樋管は全閉）

海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	全て閉鎖	破堤しない (粘り強い)

【留意事項】

- ※ 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ※ 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ※ 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ※ 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- ※ 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ※ 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。



